

1月 ピッコロだより



【1月の活動】お正月あそび／冬休みの思い出／気持ちを表現しよう／ピッコロでやりたいこと

月	火	水	木	金	土
1 やす 休み とうききゅうか (冬期休暇)	2 やす 休み とうききゅうか (冬期休暇)	3 やす 休み とうききゅうか (冬期休暇)	4 しょうがつ お正月あそび をしよう 	5 しょうがつ お正月あそび をしよう 	6 しょうがつ お正月あそび をしよう
8 やす 休み せいじん ひ (成人の日)	9 しょうがつ お正月あそび をしよう 	10 しょうがつ お正月あそび をしよう 	11 ふゆやす おもて 冬休みの思い出を 伝えよう 	12 ふゆやす おもて 冬休みの思い出を 伝えよう 	13 ふゆやす おもて 冬休みの思い出を 伝えよう
15 ふゆやす おもて 冬休みの思い出を 伝えよう 	16 ふゆやす おもて 冬休みの思い出を 伝えよう 	17 ふゆやす おもて 冬休みの思い出を 伝えよう 	18 わかりやすく伝えよう 今年がんばりたいこと	19 わかりやすく伝えよう 今年がんばりたいこと	20 わかりやすく伝えよう 今年がんばりたいこと
22 わかりやすく伝えよう 今年がんばりたいこと	23 わかりやすく伝えよう 今年がんばりたいこと	24 わかりやすく伝えよう 今年がんばりたいこと	25 ピッコロでやりたいこと ことばあそび	26 ピッコロでやりたいこと ことばあそび	27 ピッコロでやりたいこと ことばあそび
29 ピッコロでやりたいこと ことばあそび	30 ピッコロでやりたいこと ことばあそび	30 ピッコロでやりたいこと ことばあそび	【中学生の活動】 ・1/13(土) “2024年 WISH LIST”を作ろう 夢や願いを叶えるために今年がんばりたいことを具体的に考えます。 ・1/27(土) ピッコロでやりたいこと～カードゲーム編 partⅡ～		

（今月の主な活動）

- 《お正月遊び》お正月クイズや日本の伝承あそびを友だちと共有しながら楽しみます。【帽子を持ってきてください】
- 《冬休みの思い出》冬休みの出来事を振り返りながら絵や文章で表現し、楽しかった思い出を友だちと共有します。
- 《わかりやすく伝えよう》今年がんばりたいことや目標の伝え方を知り、今年目標を友だちにわかりやすく伝えます。
- 《ピッコロでやりたいこと》身体を動かしたり、リズムに合わせてたりしながらルールを守り、ことばあそびを楽しみます。

※専門職の来所予定日

公認心理師(松本)：4日(木)、5日(金)、6日(土)、24日(水)、25日(木)

言語聴覚士(永山)：10日(水)、11日(木)、12日(金)、15日(月)、16日(火)、19日(金)、20日(土)、29日(月)

理学療法士(樋口)：13日(土)、26日(金)、30日(火)、31日(水)

作業療法士(大平)：9日(火)、18日(木)、26日(金)、31日(水)

★お知らせとお願い★

- ・登園時間は、平日 16 時 20 分まで、土曜日（午前）10 時 20 分まで、（午後）13 時 50 分までをお願いします。
- ・おやつは、平日 15 時 15 分～15 時 30 分、土曜日（午前）10 時 30 分、（午後）15 時に提供いたします。
- ・お迎えは、平日 17 時 20 分～18 時の間、土曜日（午前）11 時 50 分～12 時 10 分の間、（午後）15 時 20 分～15 時 40 分の間をお願いします。また、お迎えの際は引き継ぎ 20 分前に番号札を準備しますので、来所された順に取ってお待ちいただき、引き継ぎ開始時間になりましたらインターホンにてお知らせください。

児童発達支援センター歩路だより

「子どもへ“真剣”に伝えましょう！」

子どもたちをたくさん褒めて、すくすく育ててほしいですね。しかし、子どもたちがしてはいけないことをしたときに叱らないといけ
ない場面もあると思います。そのようなときに、子どもたちへつい感情的に伝えてしまったことはありませんか？感情的になると叱
る側も嫌な気持ちになってしまいます。今回は、子どもたちを叱るときのヒントをご紹介します。

～叱る技術～

○子どもたちの行動の理由を聞き、一緒にどうすればよかったか考えましょう。

（なんで○○したのかな。友だちはどう思うかな。次はどうしたらいいかな。）

○自分や他の人を傷つける行為などは即座に“真剣”に叱りましょう。

本気（真剣）と感情的は異なります。感情的になると、子どもは否定された感情だけが残ります。

声のトーンを低くしたりゆっくり伝えたりして、落ち着いた態度や口調を意識しましょう。

○自己決定権を大事にしましょう。自分で考えて行動できるようになります。

（命令や禁止ではなく、「・・・してくれるとうれしいな」と希望を伝えたり、選択肢を提示したりしましょう。）



皆さんこんにちは。言語聴覚士の水流理詩（つるさとし）と申します。4 月よりこどもサポートセンターあさひが丘で統括主
任と言語聴覚士を兼任しており、ご存じない方も多いかと思いますので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は、令和元年に言語聴覚士の資格を取得した後、東京都にある児童発達支援センター、鹿児島県のリハビリテーショ
ン病院で経験を積んできました。お子さんから成人の方まで広く支援・リハビリを行ってきた経験を、今後は落穂会にご縁
があった利用者様の言語・コミュニケーションの支援に活かすとともに、私自身も更に学びを深めたいと考えています。

さて、今回のコラムでは「吃音」についてお話をしたいと思います。吃音とは話すときにことばに詰まったり、一部の音を
繰り返したり、引き伸ばしたりするために、滑らかな発音、会話が難しくなる状態のことを言います。日本ではおおよそ 10
人に 1 人に吃音が出現するという比較的身近なことばの問題ですが、吃音という名称やおおまかな状態以外、具体的な
対応まではあまり知られていないように思います。

吃音はそのほとんどが 2～5 歳に出現します。7～8 割程度の子どもは自然に治ること、以前は
効果的な対応方法が曖昧だったこと、全国でも専門的な相談機関が少ないことなどから、

これまでは相談に行っても「様子をみましょう」と言われることが多くありました。ただ、現在では、
周囲が話す速度をゆっくりにし、子どもの話を無条件に聞く時間をとるなどの子どもがより楽に

話せる関わり方や、反対に子どもへの「ゆっくり話して」などの指示をしたり、話の先取りをしたりするなどの望ましくない関
わり方が明らかになっています。有名人では、アメリカのジョー・バイデン大統領や人気ミュージシャンのエド・シーランなどが
吃音者として知られ、最近では日本でもジャーナリストや医師など吃音を公表する人が増えたことで、吃音に対するイメージ
にも変化が見られています。

もし、お子さまの「ちょっと最近ことばにつかえながら話してるな」「ことばの始めの音を繰り返すことが多いな」などの様
子に気づいたり、お子さま自身から話し辛さについて訴えが聞かれたりすることがありましたら、ぜひ、落穂会の言語聴覚
士にもご相談ください。保護者の皆様と一緒に考え、お子さまのサポートに努めて参りたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

こどもサポートセンターあさひが丘 統括主任・言語聴覚士

水流 理詩

